

人気ドラマのロケ行われる

(三殿貯木場にて)

「南木曾支署」平成二十一年十一月十三日と十五日の二日間、当支署の三殿貯木場において、TBS系ドラマ「浅見光彦〜最終章〜」のロケが行われました。

このドラマは、主人公のルポライター「浅見光彦」が、日本各地を旅しながら事件を解決するといったシリーズもので、今回は、七年前に旅先である木曾で亡くなった妹（山で転落死扱いとされていた）の命日に合わせ、母と木曾を訪れ、妹の死に隠された謎を解き明かすといったもので、三殿貯木場のロケでは妹の死とも密接に関係すると思われた者が殺害された現場として使われ、ヒノキ人工林の極をバックに、警察の実況見分が進む中で、浅見と刑事とのやりとりが撮影されました。

ドラマのロケ場所の選定に当たり、制作会社は木曾らしい風景へのこだわりから、ヒノキの里らしいイメージを漂わせ



三殿貯木場でのロケの様子



エキストラとして参加した西村さん

る三殿貯木場に白羽の矢を立てたというものです。

十五日（日曜日）のロケには、当支署から二名の職員がエキストラとして、鑑識役と刑事役で出演。十二月二日の放送では、俳優と見間違えう程の名演技であったとドラマを視聴した同僚の評価は高く、出演した職員にとっても貴重な体験となりました。

今回、撮影協力といった形で、「中部森林管理局南木曾支署」のテロップもドラマへ入れていただき、新たな手法ではありますが、開かれた国有林としてのPRにも繋がったものと考えています。

低コスト・高効率化作業を

目指した技術講習会を実施

「東濃署」低コスト・高効率化作業を目指した技術の向上、列状間伐の設定方法等についての技術講習会を、十一月十日〜十二日の二日間、加子母裏木曾及び中津恵那国有林において開催しました。これは先般木曾管内で実施された低コスト・高効率作業の現地検討会をうけ開催されたもので、名古屋事務所の担当者二名、森林官及び係員を中心に署内職員

も含め二十名以上が参加し、現地実習を行いました。一日目は二班に分かれプロット設定を行い、列幅等を検討するなど列状間伐の意義や設定方法等について学びました。

二日目午前中は低コスト路網のDVD及び粘土による模型等を参考に、作業路の設定及び作設等について学んだ後、午後は、現地において実際に作業路の線形を各班で設定する等、より実践的な視点で検討しました。

今回の講習会を踏まえ、現場業務の中で低コスト・高効率化作業の定着にむけて意識し取り組んでいきたいと考えています。



作業路線形を検討

新たにタテヤマスキの巨木発見

「富山署」早月国有林の中山(一、二五五辺)でタテヤマスキの巨木が発見され



発見されたタテヤマスキ

た。

巨木は、直径十九メートル、樹高二十メートル、地上約二メートルから三本の幹に分かれて大岩を抱くように生育していました。

発見者は、植物写真家の宮誠而さんで、中山で偶然発見されました。

当署としても、発見箇所が早月川上流の中山で、この地域では初めての生育確認であることから、正確な位置は公表しないで見守ることとしています。

長野市内の小学生を対象に

「出前授業」を実施

「指導普及課」十二月二日、長野市の信州大学教育学部附属長野小学校において、五年生の児童、四十名を対象に「出前授業」を実施しました。

今回の「出前授業」は、本学年の児童の保護者の方々が中心になり、児童達が四年生であった昨年の「親子でリース作り」に引き続き依頼をされたもので、

「木工クラフト等の作製や森の学習を通じて、子供達に山や自然の大切さについて理解を深めてもらいたい」という保護者の皆さんの子供達への思いのもと、保護者の方も一緒になって、ヒノキの間伐木を使つてのノコギリ体験やコースター・ネームプレート作り、ネイチャーゲームを行いました。

また、十二月九日には、同市内の城東小学校の五年生の児童、三十名を対象に「出前授業」を実施し、「世界で一つだけのマイ箸」作りに挑戦しました。

今回の「出前授業」は、総合的な学習の時間を利用して、自分達の手で箸を作つてみたいという児童達の提案のもと、クラス全員からお願いの手紙をいただき、実施したもので、ヒノキの端材から採取した材料を、ナイフや小刀を使つて、慣れない手つきで一糸懸命に木を削りながら、オリジナルのマイ箸作りに熱中していました。

新型インフルエンザの流行により職員もマスク姿での出前授業となりました。

このクラスでは、事前学習として、学校の授業の中で、児童達自らが箸作りに



小刀上手にできるかな

適している木材を調べたり、間伐材の利用について調べたりと、今回のマイ箸作りに向けた準備を重ね、また、校長先生から、「学校の周りには自然がなく、森林や木に触れる機会が減っている子供達に、最終的な目標を箸作りにすえながら、間伐材についての勉強を活かし、ノコギリの使い方等の学習や間伐材を使つてのクラフト作り等を通じ、木とのふれあいや自然の大切さを感じさせたい」とのお手紙もいただきました。

十月十四日にも「出前授業」を実施し、校庭の樹木を使つたネイチャーゲームやノコギリ体験、間伐木を利用したクラフト作成の実習も行いました。

自由に遊び、安らぐ場の提供

「国有林野管理課 ファミリー・フォレスト・ガーデン」ト・ガーデンは、家族やグループなどが国有林を利用して「森林とのふれあい」を目的に、平成十二年度から北信森林管理署管内の「カヤの平自然休養林」において、十八区画を設定し実施しています。

当地域は、樹齢七十五年から九十年のシラカバやブナなどの天然林がある木島平村郊外で、この一帯は森林セラピー基地にも認定されています。

今年度は、契約満了となる四区画において募集を行ったところ八名の申込みが

あり、募集した四区画のうち、三区画で競合したことから、十一月二十五日に抽選会を実施し当選者を決定しました。

今後、利用にあたり契約を締結し、来春から原則三年間（最長六年間）の利用となります。森林と共生しながら、自由に遊び、安らぐ場として活用していただくとともに、既に利用されている方々を含めた秋の交流会等の機会を通じて、開かれた国有林の情報発信に努めて参ります。



抽選会の様子

（北相木村、南相木村、小海町、南牧村、川上村）する国有林及び官行造林地が事業区域となっています。

班員は二名と少人数班ですが、作業は除伐等の造林事業をはじめ、林道維持、各種保全管理業務等多岐にわたっています。特に近年は、温暖化対策に関わる業務が増えています。広域に及ぶ事業区域、東信署管内でも有数の急峻な地形に加えスズタケの密生地帯があり、作業環境は厳しい条件となっています。

少人数班であることから、毎朝のミーティングにポイントをおき、作業の段取り、安全の確認等をしつかり行うようにしています。

これから冬山を迎え、凍結、降雪など作業環境が一層厳しくなることから「安全第一」を基本に、交通安全、足元・手元に注意する等小さなことの積み重ねで安全作業に取組、安全第一で無事に乗り切りたいと思っています。

シリーズ 現場最前線

「安全第一」を基本に

「東信署 相木班 相木班の現場は、相木、八ヶ岳、川上の三森林事務所が管轄



本数調整伐作業中



木曾越古道と三十三観音

〔東濃署〕 当署が管轄する加子母裏木曾国有林は、中津川市の北東部に位置する面積約四、二〇〇畝の国有林です。

江戸時代には、尾張藩の藩林として管理され、留山制度（木曾五木の伐採を禁ずる）により木曾ヒノキの群生地が守られてきました。

現在は、木曾ヒノキ備林や護山神社奥社など歴史的にも興味深い見どころがたくさんありますが、今回はその一つである「木曾越古道」をご紹介します。

「木曾越古道」は岐阜県の加子母から長野県の王滝へ抜ける古道で、その歴史は今から九百年ほど前まで遡ります。

当時は、御嶽山へ向かう主要な登山道として利用され、御嶽講の行者や信者が頻繁に往来していたそうです。

そしてその道中、加子母から長野県王滝村滝越地区までの間には観音様を刻んだ三十三体の石像が奉られていました。

この観音像は、文久二年（一八六二年）に

加子母の「林文三郎」、付知の「田口忠左衛門」が発起人となり、旅人の安全を願って木曾越峠の要所に道標として安置したものです。この古道は、昭和に入ってから利用されてきましたが、道路や鉄道が発達するにつれて次第に往来が途絶え、やがては観音像の行方だけでなく、そのルートさえも不明となってしまいました。

この美濃の国と信濃の国とを結ぶ歴史ある古道を復活させようと、平成十四年に地元有志が「古道木曾越峠と三十三観音研究会」を旗揚げし、木曾越峠のルート調査と所在が不明となっている三十三体の観音像の捜索を行ってきました。

研究会の熱心な捜索の結果、これまでに二十六体の観音像が発見されたものの、この四年間は、見つからない状態が続いていました。

ところが、今年の十一月に研究会と裏木曾古事の森育成協議会が協賛して「紅葉の『裏木曾の森』で三十三観音を探そうツアー」を開催したところ、新たに二十七体目が発見され、テレビニュースにも取り上げられました。行方不明の観音像は残り六体となり、同研

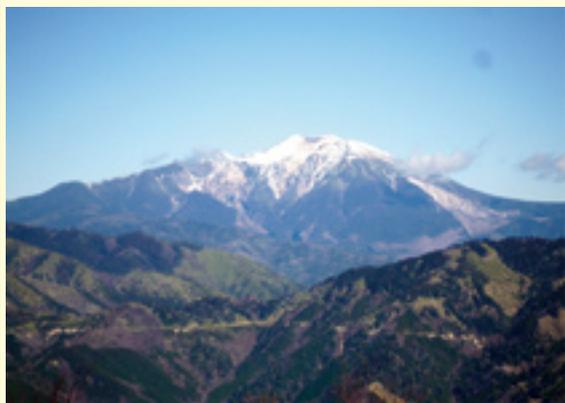


新たに発見された観音像

究会では、今後も捜索を行う予定です。発見されたルートは現在、加子母にある高時山へ登るアクセス道としても利用されており、道の脇では昔の風景そのままに観音像が登山者等の安全を見守っています。



昔の佇まいを現在に残す木曾越古道



高時山から望む御嶽山

◆アクセス

中央道中津川ICから国道二五七号線を経由して加子母へ
加子母総合事務所を横切り
〔古道木曾越登山道入口〕へ

人のういき

中部森林管理局人事

十一月十六日付

▽南信森林管理署総務課付（南信署諏訪南森林官） 堀内 志保

林野庁人事（抄）

十二月一日付

▽林野庁国有林野部経営企画課付（森林整備部計画課併任）（中部森林管理局 東信森林管理署長） 大西 満信

▽中部森林管理局東信森林管理署長（北海道森林管理局日高北部森林管理署長） 安永 正治

中部森林管理局人事

十二月一日付

▽関東森林管理局出向（総務部総務課付）（林野庁森林整備部計画課併任 国有林野部経営企画課併任）（木曾署南木曾支署治山課技術専門官） 掛部 晋

▽岐阜森林管理署業務第二課土木係（岐阜署樫谷森林事務所） 生駒 豊文